

今週（3月30日から4月3日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、財政等要因としては30・31日に年度末諸払い、4月1日に2Y発行、2日に税・保険料揚げ、3日に10Yなどがあった一方で、各種金融調節の期日とスタートが大量にあり、日銀当座預金残高は391~398兆円前後での推移となった。無担保コールO/N加重平均レートは、年度末となる3月31日は、調達サイドに様子見姿勢が見られたことで大幅に低下した。しかし、その日を除けば、信託銀行を含む邦銀・証券業態を中心とした、取り手の調達意欲が旺盛であったことから、高い水準での出合いが続いた。ターム物の出合いは調達希望が強い中、オファーサイドにおいてはターム物で運用を控える先が多く出し手が不在であるため、散発的な出合いが見られた程度で、1~2Wのショートタームで▲0.01~▲0.005%のレンジで推移した。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは3日に1W物・15,000億円がオファーされ、応札額2,000億円（期落ち無し）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、年度末初にあたる30日のT/Nが▲1.00~▲0.30%程度のレンジで取引された。31日以降は年度末要因が剥落したことでレートが上昇し、▲0.25~▲0.10%程度のレンジで推移した。

SC個別銘柄では、5年133~142、10年336~357、20年162~171、30年59~65、40年9~12などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、軟調に推移した。週前半はレベル感からの買いも入っていたものの、海外勢の買いが後退していることや、新年度となりGCレートが上昇したことなどを受けてか、3M物が▲0.200~▲0.132%で出合うなど、軟調な展開となった。

31日に実施された短国買入オペは、前回と同額の2,500億円でオファーされ、平均落札利回較差+0.002%、按分落札利回較差▲0.014%と、しっかりした結果となった。

3日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.145~▲0.132%での出合いが見られたものの、平均落札利回▲0.1218%、按分落札利回▲0.1022%とテールが流れる弱い結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.150~▲0.140%出合いと堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、週間の償還総額が1,600億円であるのに対して、発行総額は、幅広い業態から期初の調達が再開されたことで1兆9,000億円程度となった。食品・機械・鉄鋼業態からは、500億円から1,000億円の大型発行がみられた。外部環境の不透明さから、通常よりも期間を長く、発行量を増大させる発行体が増えており、活況なマーケットとなった。その一方で、新型コロナウイルスによる影響に加え、年度末という季節的な要因も重なり、投資家がリスクテイクを抑える方向にあったため、発行レートの上昇や札割れが散見された。週を通して発行レートの上昇が続いていたものの、週後半にかけては、期初の大規模発行が一巡したことで、水準を見定める動きも見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
3/30（月）	19,084.97	0.000	107.55	△ 0.017	△ 0.575	3,972,900
3/31（火）	18,917.01	0.010	108.70	△ 0.070	△ 0.243	3,952,600
4/1（水）	18,065.41	0.001	107.58	△ 0.022	△ 0.142	3,917,000
4/2（木）	17,818.72	△ 0.005	107.48	△ 0.020	△ 0.103	3,956,200
4/3（金）	17,820.19	△ 0.014	108.10	△ 0.017	△ 0.142	3,960,700

来週（4月6日から4月10日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
4/6 (月)					
4/7 (火)	2月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 2月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 3月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 2月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	30Y 7,000億円 4/8発行			2月の米消費者信用残高
4/8 (水)	2月の機械受注統計(内閣府 8:50) 2月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 2月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 3月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	交付税借入 11,000億円 4/17借入			
4/9 (木)	3月の消費動向調査(内閣府 14:00)	TB6M 29,000億円 4/10発行	5Y 19,000億円 4/10発行		2月の米卸売売上高 3月の米生産者物価指数 4月のミシガン大消費者信頼感指数速報
4/10 (金)	3月の企業物価指数(日銀 8:50)	TB3M 50,400億円 4/13発行	エネルギー 対策借入 8,500億円 4/20借入		3月の米財政収支 3月の米消費者物価指数 EURO、London祝日(Good Friday)

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
4/6 (月)	1,000	▲ 10,900	▲ 9,900	国債買入 全店共通 ETF買入 国債補完 国債売現先(米ドル)		7,800 2,000 200 3,400 2,700 ▲ 6,300	9,800	▲ 100	恩給 TB3M発行▲50400償還43400
4/7 (火)	2,000	4,000	6,000	国債売現先(米ドル)	1,400		1,400	7,400	
4/8 (水)	1,000	▲ 5,000	▲ 4,000	国債売現先(米ドル)	15,400		15,400	11,400	30Y発行▲7000
4/9 (木)	0	2,000	2,000	国債売現先(米ドル)	21,300		21,300	23,300	
4/10 (金)	0	▲ 15,000	▲ 15,000	国債売現先(米ドル)	10,800		10,800	▲ 4,200	TB6M発行▲26000償還22900 5Y発行▲19000 交付税借入▲10500期日10500
週間合計	4,000	▲ 24,900	▲ 20,900	—	55,000	3,700	58,700	37,800	

4/6は日銀予想、4/7以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、新型コロナオペアでマクロ加算残高が大幅に増加していることや、米ドル資金供給用担保国債供給オペなどによって当座預金が増加しているため、積み最終日となる15日までは引続き堅調な地合いが予想される。レポ市場は、GC T/Nは▲0.15～▲0.08%と、落ち着いたレート水準での取引が予想される。短国市場は、9日に6M物、10日に3M物の入札が実施予定となっている。短国発行の増加が見込まれる中、レート水準を含め、市場動向が注目される。CP市場は、新型コロナウイルスの影響が予測困難であることから、市場の見通しは不透明であり、発行レートのレンジは引き続きワイドな展開が続くと想定される。

主要なイベントとしては、海外では10日に3月の米CPIが予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされようお願い申し上げます。

◆金融商品の取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品の取引には手数料等をご負担頂くものとあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入